

日本人初のオリンピック・メダリストは福岡県民です!

『2020東京オリンピック・パラリンピック』の開催まで、いよいよ2年余りとなりました。主会場となる「新国立競技場（オリンピックスタジアム）」をはじめ、各競技施設も建設が進み、その姿がマスコミでも取り上げられるなど、徐々に盛り上がりを見せています。

こうしたなか、やはり気になるのが“メダルの数”です。日本人選手が夏季五輪で過去最高のメダル数を獲得をしたのは『2016リオデジャネイロ』で41個、パラリンピックでは『2004アテネ』で52個となっています。『2020東京オリンピック・パラリンピック』では、ぜひ、メダル獲得数最高を更新してほしいですね。

さて、『リオデジャネイロ五輪』で、テニスの錦織圭選手が銅メダルに輝いた際、「日本人がテニスでメダルを獲得したのは96年ぶり！」と話題になりました。



実は、この96年前にテニスでメダルを取った選手が、なんと日本人初のオリンピックメダリストとなる熊谷一彌（くまがいいちや）さんで、大牟田市出身の方なのです。

1920年『アントワープ・オリンピック』でシングルスとダブルス（柏尾誠一郎氏とペア）ともに銀メダルを勝ち取っています。

熊谷さんは、オリンピックというスポーツの最高峰の舞台において、日本人として世界挑戦への道を開拓した選手のひとりであったのです。福岡県民として、なんとも誇らしいですね。

『こどもの交通安全大会』が「市科学館」で開催されました。



『福岡県第56回こどもの交通安全大会』が7月5日、「福岡市科学館サイエンスホール」（福岡市中央区六本松）で開催されました。

この大会は、交通安全の確保に小学生が主体となって活動し、かつ、教職員、保護者等も積極的に取り組んでいる小学校の表彰を行うことにより、県内の小学校における交通安全意識を高揚し、こどもの交通事故を防止することを目的に開催され、毎年開催されています。

今年の大会では、交通安全運動実践優秀校として、県内から23校が選ばれ、最優秀校の田川市

「大浦小学校」他3校をはじめ、優秀校と合わせて表彰されました。

子ども達を交通事故から守るため、学校と地域の方々が一体となった素晴らしい取り組みがいくつも紹介され、大変素晴らしい大会でした。

「社会を明るくする運動」中央区大会が開催されました。



7月9日、『第68回「社会を明るくする運動」中央区大会』が開催されました。主催は「社会を明るくする運動」中央区推進委員会、共催は中央区役所、福岡保護観察所、中央保護区保護司会、中央区更生保護女性会でした。

開会式の後、中央区管内犯罪状況について中央警察署から報告がありました。

その後、記念講演では、「福岡少年院」齋藤院長による『福岡少年院の矯正教育—再発防止の取組—』のご講演でした。

大変勉強になった大会でした。